

広島の中世と近世

— 史・資料を読む

地域の歴史・文化を学ぶ際、古文書や典籍についての知識があったら、と思ったことはありませんか。この講座では、文献調査や読解のための基礎、基本をおさらいしながら、地域に伝わる史料・資料を読み解きます。

2/8(火)

古文書調査の意義

秋山 伸隆 教授

2/15(火)

古文書の原本を読む

秋山 伸隆 教授

2/22(火)

ハレと今の古文書の違い

松井 輝昭 教授

3/1(火)

古文書から見た礼状の書き方

松井 輝昭 教授

3/8(火)

古文書と古典籍

樹下 文隆 教授

3/15(火)

江戸時代の広島と能楽

樹下 文隆 教授

3/22(火)

和本を読む—俳諧を楽しむ心— 西本 寮子 教授

※全7回、いずれも 18:00~20:00

■会 場: 広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室 A・B(北棟5階) 広島市中区袋町6番36号

■対 象: 広島市内に在住か通勤・通学の人

■定 員: 100名(抽選)

■申込方法: はがきに(一人1枚)、①氏名(フリガナ)、②住所、③電話番号を記入して、
(財)広島市ひと・まちネットワーク事務局「広島の中世と近世—史・資料を読む」係へ。
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

■申 込: 平成22年12月1日(水)~平成23年1月11日(火)必着

※抽選結果は平成23年1月中旬に発送予定

■受講料: 3,500円(全7回分)

■問合せ先: (財)広島市ひと・まちネットワーク事務局

TEL 541-5335 FAX 541-5611

■主 催: (財) 広島市ひと・まちネットワーク・広島市

申込みの際にお寄せいただいた個人情報については、県立広島大学と共有しますが、事業運営以外の目的には使用しません。



広島の中世と近世

— 史・資料を読む

1 古文書調査の意義

日時：2月8日（火）18:00～20:00
内容：古文書は、原本が残っている場合と写（うつし）だけが伝わっている場合があります。原本には、花押（かおう）や料紙（りょうし）などの情報が含まれています。歴史研究における古文書調査の意義についてお話しします。
講師：秋山 伸隆 教授

2 古文書の原本を読む

日時：2月15日（火）18:00～20:00
内容：古文書の原本を読む楽しさはどんなところにあるのでしょうか。毛利元就・隆元父子が取り交わした自筆書状などを読み解きながら、戦国武将の内面に迫ります。
講師：秋山 伸隆 教授

3 ハレとケの古文書の違い

日時：2月22日（火）18:00～20:00
内容：私たちの生活と同じく、古文書にもハレとケの区別があります。「ハレの古文書」と「ケの古文書」の違いを確認したうえで、不運な歴史をたどった後者の史料としての意味合いについて考えます。
講師：松井 輝昭 教授



4 古文書から見た礼状の書き方

日時：3月1日（火）18:00～20:00
内容：戦国大名毛利氏などが巖島神社に送った礼状を取り上げ、1通ごとに差出人のどのような思いを読み取ることができるか考えます。その場合、文字遣いや言葉の使い分けだけでなく、料紙の質・形状や折り方の違い、封紙（ふうし）の有無も問題になります。
講師：松井 輝昭 教授

5 古文書と古典籍

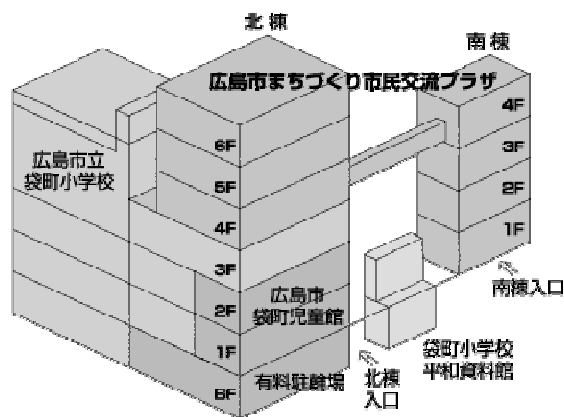
日時：3月8日（火）18:00～20:00
内容：古文書・古典籍は個人の文書や蔵書が代々受け継がれたものです。一つひとつが文化財であると同時に、所蔵文書・典籍の全体が家や個人のことを物語っています。県内の諸家文書・文庫を取り上げ、その特徴を考えます。
講師：樹下 文隆 教授

6 江戸時代の広島と能楽

日時：3月15日（火）18:00～20:00
内容：前回取り上げた広島県内に現存する文書・古典籍のうち、能楽に関わる文書と謡本などを資料として読むことで、武家、町方それぞれの能楽との接し方を調べます。
講師：樹下 文隆 教授

7 和本を読む—俳諧を楽しむ心—

日時：3月22日（火）18:00～20:00
内容：人々は本を読み、本で学び、時には本を作りました。残された書物から、人々の営みや思いを読み取ることができます。最終回は、竹原で編纂された『さくらあさ』を例として、芸南の人々の芭蕉への思いを探ってみます。
講師：西本 察子 教授



アクセス

- 市内電車：袋町電停から徒歩約3分
- バス：袋町バス停から徒歩約3分
- アストラムライン：本通駅から徒歩約6分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
※自転車・バイクの方は、地下に公共駐輪場（有料）があります。